

Market Flash

発表日: 2018 年 8 月 28 日 (火)

製造業サーベイに改善の兆候

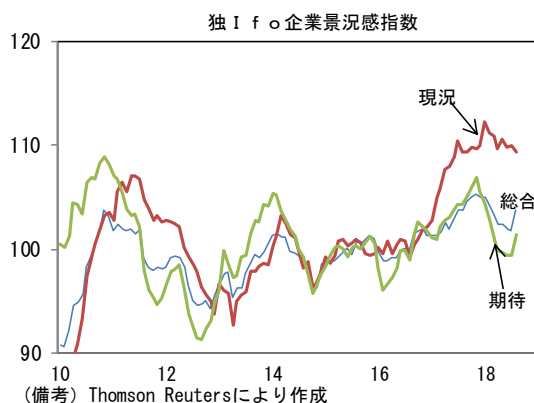
～今後は米通商政策の進展に期待～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部

主任エコノミスト 藤代 宏一 (TEL: 03-5221-4523)

【海外経済指標他】

- ・ 8 月独 I f o 企業景況感指数は 103.8 へと 2.1pt 改善。昨年 11 月以来の前月比プラスを確保。内訳は現況 (110.0 → 109.3) が僅かに軟化した反面、より重要な期待 (99.4 → 101.4) が上昇。今回の結果はドイツの総合 PMI が 8 月に 55.7 へと 0.7pt 上昇を示したことで概ね整合的で、ドイツ経済の再加速を示唆している。



【海外株式市場・外国為替相場・債券市場他】

- ・ 前日の米国株は続伸。トランプ大統領が N A F T A 再交渉を巡り、メキシコと大筋合意したと発表。自動車株を中心に幅広い銘柄に買いが入った。N Y ダウは 26000 ドルを回復、NASDAQ は最高値更新。W T I 原油は 68.93 ドル (+0.21 ドル) で引け。
- ・ 前日の G 10 通貨は JPY と USD の弱さが目立った。リスク選好が強まるなか、最近のトレンドに習って JPY と USD 売りが優勢。USD / JPY は 111 前半で一進一退、EUR / USD は 1.16 後半へと上伸。メキシコに次いで N A F T A 交渉の大筋合意に近いとの見方から CAD も強かった。他方、新興国通貨はまちまち。ZAR、BRL が反発した反面、約 1 週間の連休明けの TRY は 2.1% 下落。
- ・ 前日の米 10 年金利は 2.846% (+3.6bp) で引け。N A F T A 交渉の大筋合意を手掛かりに金利上昇。欧州債市場 (10 年) はドイツ (0.376%、+3.1bp)、フランス、スペインが小幅に金利上昇、イタリアが概ね横ばい。対独スプレッドはイタリアがタイトニング。

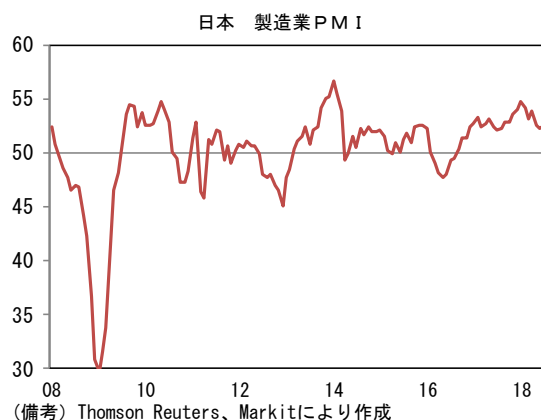
【国内株式市場・アジアオセアニア経済指標・注目点】

- ・ 日本株は米国株上昇に追随して続伸 (11:00)。日経平均 23000 円近傍でもみ合い。



< #PMI #製造業に好転の兆候 #I f o 指数も改善 #NAFTA交渉の進展 >

- ・ 週初まではジャクソンホールのパウエル議長講演に関心が向かっていたこともあって経済指標への注目は低かったが、最近発表された幾つかの経済指標では世界的に製造業の増産モメンタムが再加速する兆候が確認された。米国では、設備投資の先行指標であるコア資本財受注がISM製造業景況指数等に沿う形で増加し、設備投資加速を示唆。一致指標のコア資本財出荷も同様に強く、企業の旺盛な投資意欲が見て取れた。ユーロ圏では速報性と予測精度に優れたドイツのI f o 指数が9ヵ月ぶりに改善したほか、ユーロ圏製造業PMIも改善の兆しがみられた。ヘッドラインこそ低下したものの重要項目である生産と新規受注が双方とも上昇しており内容が良かった。日本では製造業PMIが52.5へと僅かながら上昇。内訳はサプライヤー納期指数が下押し方向に寄与する反面、生産と新規受注が上昇した。とりわけ新規受注の上昇は、経産省公表の鉱工業生産が下向きのカーブを描きつつある現状、注目すべき動きだろう。PMI速報値が公表されない中国、韓国、台湾の結果を待たずして世界的に生産サイクルが上向くと判断するのは時期尚早だが、年初からはば一貫して低下傾向を辿ってきたユーロ圏と日本の製造業サーベイがここへきて改善したことは朗報と言える。
- ・ これら指標は米中間で実際に関税が発動されたほか、トルコの金融市場が混乱するなど、必ずしも外部環境が良くない状況下で集計されたものであり、当然のことながらNAFTA交渉の進展は反映されていない。今後は在庫調整圧力の緩和と、米通商政策に対する不透明感払拭が相俟って企業マインドが好転する可能性があるだろう。特に日本とドイツは米国が自動車貿易を巡って態度を軟化させていることから、その恩恵が及びやすい。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。